睦月、如月に観たい北斎の「冨嶽三十六景」と俳句

https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Teahouse_at_Koishikawa.jpg
冨嶽三十六景　二十五　礫川雪ノ且（こいしかわゆきのあした）

　めぐりくる季節に合う名画と俳句、今回からは葛飾北斎（かつしかほくさい）（1760 ～ 1849）の代表作で、日本美術の歴史を語る上で欠かすことのできない傑作として、国内外の人々に広く愛されている「冨嶽三十六景」から睦月、如月に観たい作品と俳句です。

19 世紀後半のヨーロッパ芸術界を席巻した「ジャポニズム」。
その火付け役となったのは、日本からフランスに輸出された陶磁器を包む緩衝材として使われていた「北斎漫画」だと伝えられています。
これがある芸術家の目にとまり、そのデッサン力と多くのモチーフをいくつものパターンで表現する発想力に驚き、それがきっかけで、北斎や広重を筆頭とする日本の浮世絵など彼らの芸術作品が注目を集め、瞬く間にヨーロッパ中に広がって行きました。

フィンセント・ファン・ゴッホ、エドゥアール・マネ、エドガー・ドガをはじめ印象派の名画家たちが心酔し、天才ガラス工芸家エミール・ガレなど工芸の世界で活躍する芸術家たちも北斎や広重の作品の影響を色濃く受けました。

2020 年、日本のパスポートが 28 年ぶりにリニューアルされ、査証ページの背景に「冨嶽三十六景」の作品が敷かれるようになりました。
また、今年、2024 年にお目見えする新千円札の裏面に「神奈川沖浪裏」が採用されることになっています。
まさに今、注目されている「冨嶽三十六景」のうち睦月、如月に観たい作品と俳句をお楽しみ下さい。

１．冨嶽三十六景　二十
相州梅沢左（そうしゅううめざわのひだり）

https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Umegawa_in_Sagami_province.jpg

　相州梅沢とは、現在の神奈川県中郡二宮町山西付近です。
東海道の大磯宿と小田原宿との中間にあった立場（たてば、人足が駕籠や馬を止めて休息する場所）で、茶屋などがあるにぎやかな場所でした。

この絵では五羽の鶴が富士山を背景に水辺に佇（たたず）んでおり、二羽の鶴が空に舞っています。
しかし、人家は一軒も描かれていません。
霞がたなびき、人里離れた場所であることが強調されています。
富士山をはじめ水辺も濃い藍色で描かれていて、「冨嶽三十六景」の他の富士山にはない雰囲気があります。
あえて人物や建物を描かないことで、富士山の圧倒的な存在を表現し、吉祥の画題として好まれている富士山と天空を舞う二羽と水辺の五羽で鶴が七羽という縁起の良いモチーフを描くことを目的とした作品と見られています。

ちなみに、表題の「梅沢左」は「梅沢庄」あるいは「梅沢在」の誤刻と考えられています。

「鶴は千年、亀は万年」など鶴は長寿の象徴とされ、また容姿の美しさもあって古くよりめでたき鳥とされてきました。
俳句の季語において「鶴」のみとか「〇〇鶴」の場合は通常冬の季語になります。

ここでは三冬の季語「鶴」を詠んだ句を選びました。

白ジャケツ鶴の聖女の旅途中

平畑静塔（ひらはたせいとう）

鶴舞うて天上の刻（とき）ゆるやかに

井沢正江（いざわまさえ）

また、鶴は家紋や神社仏閣、企業の意匠として古くより用いられています。
親しみのある「鶴の丸」紋をあげておきます。

日本航空（ＪＡＬ）のシンボルマーク。
鶴丸（鶴の丸）とはもともと家紋の一種で、右のようなものです。

左：https://commons.wikimedia.org/wiki/File:JAL_Dreamliner_tail_(15062685180).jpg
右：https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Tsuru_no_Maru_inverted.jpg

２．冨嶽三十六景　二十五
礫川雪ノ且（こいしかわゆきのあした）

https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Teahouse_at_Koishikawa.jpg

「冨嶽三十六景」シリーズは、実際は十二景多く全部で「四十八景」ありますが、雪景色を取り上げた唯一の作品です。
礫川とは、現在の東京都文京区小石川のこと。
題名が「雪ノ旦」とありますが、「雪ノ旦」の誤りで、雪の朝の意味です。

一晩中降り続いた雪が一夜明けてやみ、空は雲一つなく晴れわたり、冬の冷たく澄んだ空気が感じられます。

風雅な人たちがさっそく雪見をしようと見晴らしの良い高台の茶店を訪れ、一面銀世界となった江戸の街と遠くにそびえる富士の眺めを楽しんでいます。

客の女性の一人が欄干から身を乗り出すようにして、指差しているのがその先にある富士山でしょうか、それとも上空を舞う三羽の鳥を発見したからでしょうか。
いずれにしろ、彼女のちょっとした仕草のおかげで、冬空の広がりがより感じられます。

春の花（桜）、秋の月とならび称される日本の冬の美は雪ですが、雪見が庶民的な行楽となったのは江戸時代から。
江戸年中行事や名所案内の類に必ず出てくる雪見の名所は、お茶の水、神田明神社、湯島天神、関口目白台、墨田川、愛宕山など、いずれも展望の良い丘陵、川、境内です。
また、必ずそこには料亭、茶店が備わっていました。

ここでは、晩冬の季語「雪見」を詠んだ句を選びました。

ころぶ人を笑うてころぶ雪見かな

加賀千代女（かがのちよじょ）

雪見酒鶴にはなれぬ男かな

角川春樹（かどかわはるき）

余録

自然がつくりだす雪の景色に雪形（ゆきがた）もあります。
雪形とは、日本各地において、山腹に積雪と岩肌が織りなす模様を人がなんらかの形に見立てて名付けたものの総称です。
雪型の多くは、農事暦、自然暦として田畑の仕事や漁を行う時期の目安に用いられてきました。
しかし、農業形態の進歩と気象観測の発達整備により農事暦としての役割を失いつつあります。
代わって、新しい時代の観光資源の一つとして、人々の関心を集めている雪形もあります。
その代表的なものとして、大雪山の白鳥の雪渓をあげておきます。

https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Daisetsu-zan_in_summer.jpg
白鳥の雪形（大雪山）

３．冨嶽三十六景　三十
江都駿河町三井見世略図
（えどするがちょうみついみせりゃくず）

https://commons.wikimedia.org/wiki/File:A_sketch_of_the_Mitsui_shop_in_Suruga_street_in_Edo.jpg

駿河町とは、現在の東京都中央区日本橋室町のこと。
そこから南西の方角を眺めると、ちょうど正面に富士山を望むことができたため、富士山のあった駿河の国にちなんだことが町名の由来です。
駿河町の通りの両側に並ぶのは、江戸随一の大店（おおだな）越後屋三井呉服店（現在の三越）です。
越後屋は現金掛け値なしで評判となり、一日千両もの商いで江戸名所の一つとなりまた。
凧の寿の文字はお正月の大売り出しの広告でしょうか。
北斎はあえて建物の一階部分を省き、二階屋根上の瓦職人たちの軽快な動きと、広大な空を舞う凧を組み合わせ、富士山の景観を際立たせています。

また、富士山と建物の屋根が相似形を思わせる三角形になっていて、画面にリズムを生み出しています。

かって、日本ではお正月の風物詩であった「凧」。
その凧、もともとは「いか」「いかのぼり」と呼ばれていました。
日本で「凧」が「いか」と呼ばれていたのは、凧が紙の尾を垂らし空に舞う姿が海の「烏賊（いか)」に似ているからです。
欧州各国では、凧は空を飛翔する動物の名前がつけられていることが多く、英語では「Kite」で「鳶（とび)」、フランス語では「Cerf-volant」で「くわがたむし」、ドイツ語では「Drachen」で「龍」を意味する単語で呼ばれ、日本のように水性動物の呼び名は珍しいです。

凧はお正月によく揚がっていたので、新年の季語だと思いこんでいましたが、「凧」だけなら春の季語になります。
江戸の歳時記には「春の風は下から吹きあげる」ので、凧がよく揚がるとされています。
凧揚げ大会が春に開催される確率が高いのは、そんな理由もあったようです。

ここでは新年の季語「正月の凧」と「新年あるいは冬の季語+凧、いかのぼり」を詠んだ句を選びました。

正月の凧や子供の手より借り

百合山羽公（ゆりやまうこう）

風花にひきしぼるなりいかのぼり

松村蒼石（まつむらそうせき）

https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Japanese_kites.jpg
日本の様々な凧。

江都駿河町三井見世略図の凧から連想し私も一句詠んでみました。

初東風や高きに遊ぶ凧と鳶

＊初東風＝はちごち、新年になって初めて吹く東風

白井芳雄

全体を通じての参考文献、出典：編者　日野原健司
『北斎　富嶽三十六景』（岩波書店）（2020 年）
ISBN978-4-00-335811-5

監修・著者　狩野博幸
『葛飾北斎名作 100 選』（宝島社）（2023 年）
ISBN978-4-299-04727-4

監修　永田生慈
『もっと知りたい葛飾北斎 生涯と作品 改訂版』（東京美術）（2022 年）
ISBN978-4-8087-1141-2 C0071

飯田龍太・稲畑汀子・金子兜太・沢木欣一監修
『カラー版 新日本大歳時記 愛蔵版』（講談社）（2008 年）
ISBN978-4-06-128972-7

茨木和生・宇多喜代子・片山由美子・高野ムツオ・長谷川櫂・堀切実 編集委員
『新版 角川俳句大歳時記 春』（KADOKAWA）（2022 年）
ISBN978-4-04-400504-7 C0392

茨木和生・宇多喜代子・片山由美子・高野ムツオ・長谷川櫂・堀切実 編集委員
『新版 角川俳句大歳時記 夏』（KADOKAWA）（2022 年）
ISBN978-4-04-400499-6 C0392

茨木和生・宇多喜代子・片山由美子・高野ムツオ・長谷川櫂・堀切実 編集委員
『新版 角川俳句大歳時記 秋』（KADOKAWA）（2022 年）
ISBN978-4-04-400500-9 C0392

茨木和生・宇多喜代子・片山由美子・高野ムツオ・長谷川櫂・堀切実 編集委員
『新版 角川俳句大歳時記 冬』（KADOKAWA）（2022 年）
ISBN978-4-04-400502-3 C0392

参考サイト：フリー百科事典ウィキペディア（Wikipedia）

最後までお読みいただきありがとうございました。

（株）技術情報センター　メルマガ担当　白井芳雄

本メールマガジンのご感想や本メールマガジンへのご意見・ご要望等 melmaga@tic-co.com まで、
どしどしお寄せ下さい。

株式会社 技術情報センター　〒 530-0038 大阪市北区紅梅町 2-18 南森町共同ビル 3 F
TEL：06-6358-0141　FAX：06-6358-0134　E-mail：info@tic-co.com